光のかたち

まぶしい。
空の色、海の色、瓦の色、照りつける太陽、観光客らによって賑わう街。眼に映る何もかもがまぶしい。ひめゆりの塔も平和祈念公園も修学旅行生らによって明るさであふれている。

徐々に観光地から離れていき、畑が広がり始め、植物が生い茂げりうねる細い道を進むと、終焉の地、喜屋武岬へとたどり着く。眼前に広がる水平線。犠牲者の眠る平和之塔。

そこは何も語りかけてくれない。

この場所を訪れる多くの人は、水平線を眺め、ものの数分で帰っていく。

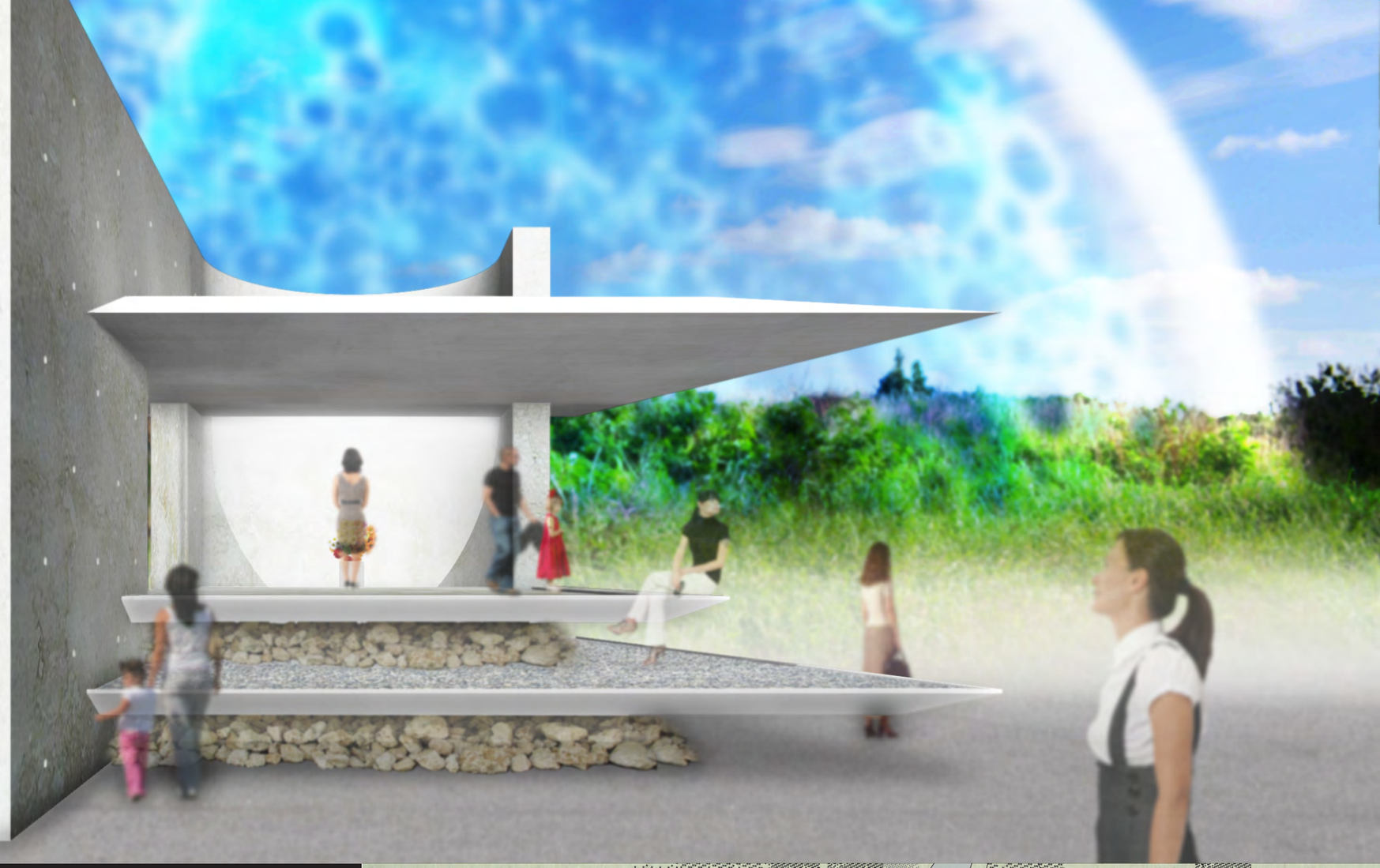
人々も平和之塔もお地蔵さんもこの地にあるものはすべて海へと向いている。

この場所から水平線を見れば、ここにある全てが見える気がした。しかし、光だけはまぶしくて見ることができなかった。

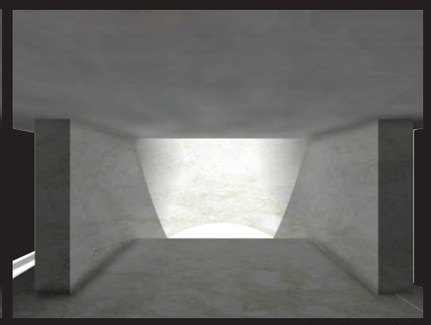
光をこの眼で見たい。

光の現像。壁に光を反射させる。そして光を鮮明にする影をつくる。海に背を向け、壁に映る光を見る。そこに亡くなった人々が還ってくるのではないかと思えた。

海へ身を投げるしかなかった人の想い、立ち止り、振り返る。魂の還る場所となる建築をつくりたいと考えました。



夏至の南中



春分秋分の南中

冬至の南中

一日の光の動き

直接見ることのできない光を壁によって現像する

海を背にしたときに見えるもの

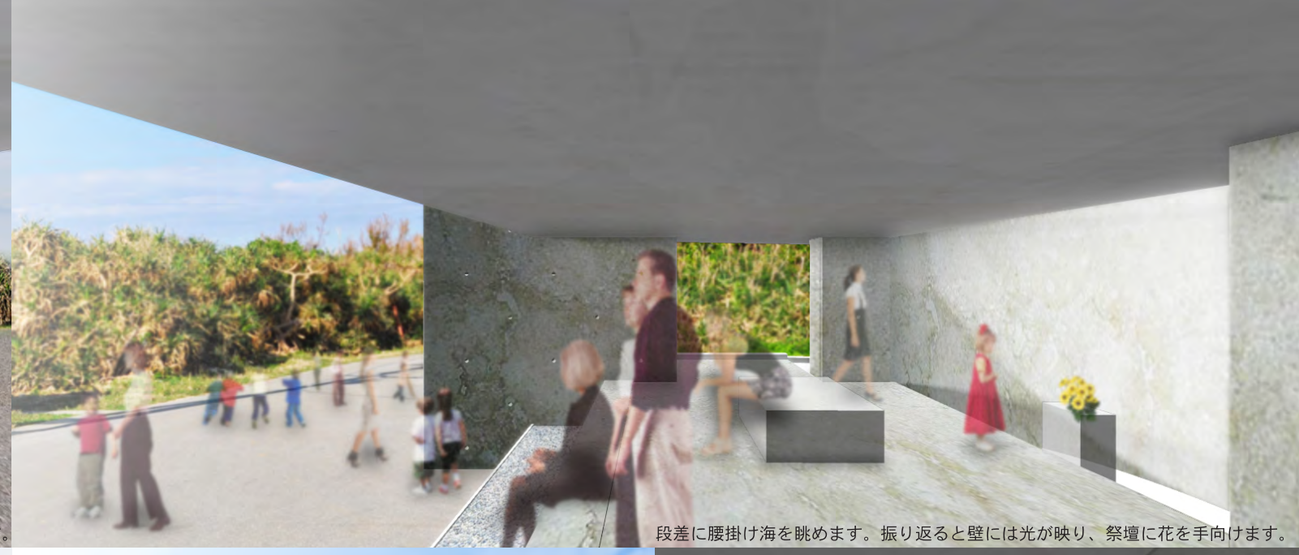
喜屋武岬にある既存のプログラム（平和之塔、お地蔵さま、仏像）はすべて海の方へ向き、海へ身を投げるしかなかった人々に祈りを捧げています。そこに訪れる人も海を眺め帰っていきます。
海の向こうだけでなく、振り返ったこの地、足元にも、寄り添えないか。壁に光を映し、海を背にしたときにその光を見る。海を眺め、振り返ったときにふと足を止める。この地に眠るもの、そこに還ってくるものに祈りを捧げ、寄り添う場所を提案します。

陰から海を拝む地蔵

岬の仏像

海へと望む平和の塔

高床にした上、手すりや柱を設けないことで海への眺望を遮らないようにします。

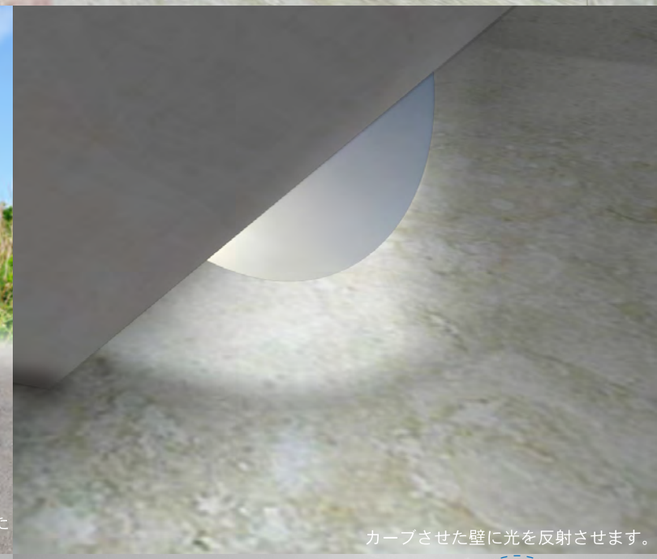


段差に腰掛け海を眺めます。振り返ると壁には光が映り、祭壇に花を手向けます。

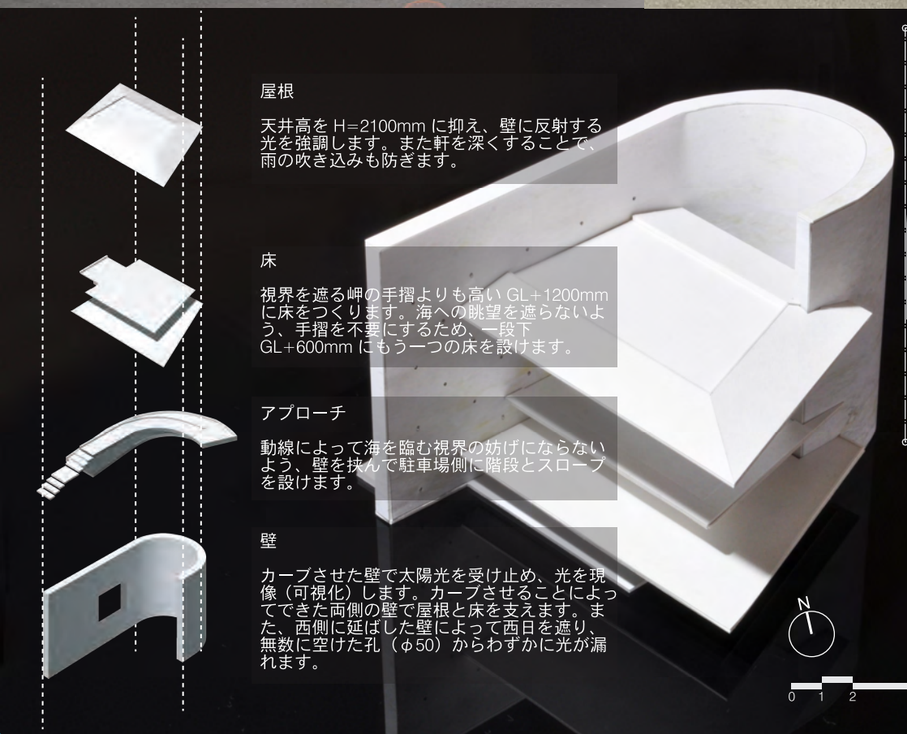
海を眺め、振り返り、壁に現像された光を見ます。

海側は眺望を遮らないようにし、
西側には西日を防ぐ壁を伸ばします。

圧迫感を軽減するため、西側の壁に開けられた
無数の小さな孔からわずかに光が漏れます。



カーブさせた壁に光を反射させます。



屋根

天井高を H=2100mm に抑え、壁に反射する光を強調します。また軒を深くすることで、雨の吹き込みも防ぎます。

床

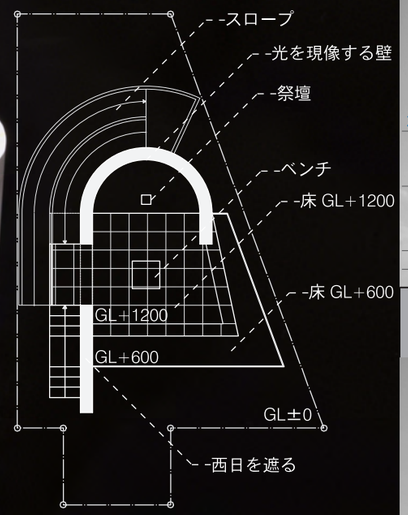
視界を遮る岬の手摺よりも高い GL+1200mm に床をつくります。海への眺望を遮らないよう、手摺を不要にするため、一段下 GL+600mm にもう一つの床を設けます。

アプローチ

動線によって海を臨む視界の妨げにならないよう、壁を挟んで駐車場側に階段とスロープを設けます。

壁

カーブさせた壁で太陽光を受け止め、光を現像（可視化）します。カーブさせることによってできた両側の壁で屋根と床を支えます。また、西側に延ばした壁によって西日を遮り、無数に空けた孔（φ50）からわずかに光が漏れます。

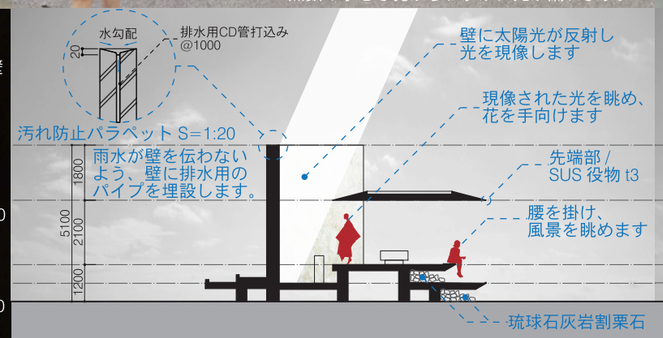


■仕上げ
床 GL+600 ／コンクリート洗出し仕上げ
床 GL+1200 / 琉球石灰岩 本磨き
壁 ／琉球石灰岩 水磨き
軒天 ／コンクリート打放し補修の上左官
（琉球石灰岩粉末入）＋浸透性撥水剤
屋根 ／コンクリート打放し補修の上
ラフトン吹付塗装＋アクリルシリコントップ

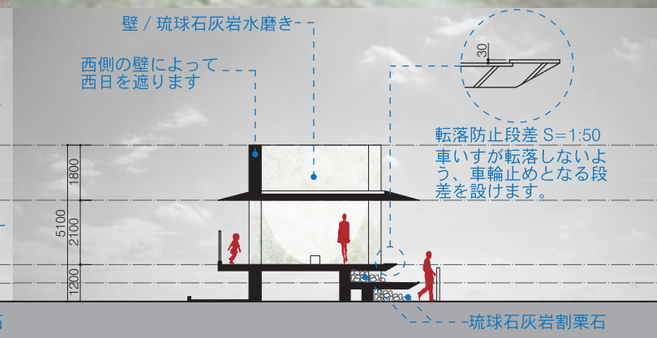
N

0 1 2 4 6 10(m)

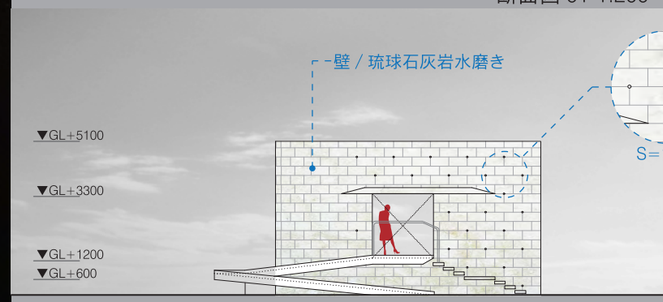
平面図 1:200



断面図 01 1:200



断面図 02 1:200



■設計概要
建築面積 / 17.09 ㎡
最高高さ / 5.10 m

立面図 1:200